

令和7年第8回
富山県教育委員会会議録

I 開会及び閉会の日時

令和7年7月29日（火）

開会午後1時30分、閉会午後2時10分

II 場所

県庁4階大会議室

III 出席委員

1番 大西 ゆかり

2番 松岡 理

3番 坪池 宏

4番 黒田 卓

5番 牧田 和樹

教育長 廣島 伸一

IV 説明出席者

理事・教育次長

小杉 健

教育次長・教育みらい室長

中崎 健志

教育次長

板倉 由美子

教育企画課長

森安 祐成

教育みらい室小中学校課長

木下 貴子

教育参事・教育みらい室県立高校課長

土肥 恵一

教育参事・教育みらい室特別支援教育課長

魚津 直美

教育みらい室県立高校改革推進課長

丸田 祐一

生涯学習・文化財課長

前川 秋人

教職員課長

安川 賢一

保健体育課長

五島 直樹

教育企画課課長（ICT教育推進担当）

五十嵐 佳美

教育みらい室課長（児童生徒支援担当）

岡本 一善

教育みらい室課長（夜間中学設置準備担当）

岩田 理恵子

生涯学習・文化財課課長（青少年・家庭成人教育担当）

河原 千里

保健体育課課長（食育安全担当）

松嶋 保子

V 傍聴人数 1人

VI 会議の要旨

午後1時30分、教育長が開会を宣する。

1 会議録の承認について

令和7年6月30日開催の令和7年第7回富山県教育委員会会議録

会議録閲覧

廣島教育長から可否を諮ったところ、全員異議なく承認した。

2 議決事項

議案第16号 令和8年度富山県立高等学校の入学者選抜日程決定の件

教育みらい室県立高校課長から説明し、原案のとおり可決した。

議案第17号 令和8年度富山県立特別支援学校高等部・幼稚部の入学者選抜日程決定の件

教育みらい室特別支援教育課長から説明し、原案のとおり可決した。

議案第18号 富山県立高等学校等の課程、学科等の設置等に関する規則一部改正の件

教育みらい室県立高校改革推進課長から説明し、原案のとおり可決した。

議案第19号 令和8年度富山県立学校募集定員等決定の件

教育みらい室県立高校改革推進課長から説明し、原案のとおり可決した。

議案第20号 博物館の登録に関する告示の件

生涯学習・文化財課長から説明し、原案のとおり可決した。

3 報告事項

(1) 令和7年度中学校第3学年及び義務教育学校第9学年生徒及び令和7年度県立高等学校全日制課程第3学年生徒の進路希望調査結果について

教育みらい室県立高校改革推進課長から説明した。

(2) 国の登録有形文化財（建造物）の登録について

生涯学習・文化財課長から説明した。

(3) 重要無形文化財の保持者（人間国宝）の追加認定について

生涯学習・文化財課長から説明した。

4 今後の教育委員会等の日程について

教育企画課主幹から説明した。

5 議事

○議案第18・19号関係

〔牧田委員〕

- ・ 1つ目に懸念がある。魚津工業高校が一括募集をして、機械創造、電気情報、IT・環境化学に1年次後半から分かれていくわけだが、これまでの募集定員に対する子どもたちの志願状況は、機械・電気・情報環境はほぼ同じような倍率だったのか。というのは、結局一括募集で入学しても、もし3つの学科の倍率に差があるのだとすれば、人気があるところとないところで同じような差が出てしまう。そうなってくると、入試ならしょうがないというように思うが、子どもたちが1年近く勉強したのち振り分けていくわけで、子どもたちのニーズに合っているのかを検証する場がない。やってみないと分からないところもあると思うが、その辺りは子どもたちのやる気を削がないことが重要だと思うので、しっかりやっていただきたい。
- ・ 2つ目に意見だが、今回の募集定員を1クラス40人にかなりこだわったことはすごくいいことだと思う。35人のクラスとか40人のクラスがあると統一感がないし、これから高校再編する上でも、40人というまずはきちんとしたユニットを守ることは大事だと思うので良かったと思う。
- ・ 3つ目に質問だが、30人や35人学級を40人にした時に、今まで40人学級のところを減らしたりしてクラス数を減らさずに1学級の定員を減らしてきたわけで、それに伴って費用も増えていたと思う。それが今回の40人に戻すことで、こういった費用の動きがあるのかを教えていただきたい。

〔教育長〕

- ・ 1つ目の懸念事項についてはやってみないと分からないというところはおっしゃるとおりだと思う。こちらとしてこの点について、学校のほうとも連携して、生徒さんへの理解促進に努めて参りたいと思っている。

〔教育みらい室県立高校改革推進課長〕

- ・ 近年の学級編制では、令和6年度と7年度において県立高校のあり方が議論されている中、学級数を

減らさず定員減の対応としてきたところだ。その結果、一般財源で県単独での教員の配置が必要となり、令和6年度においてかかった費用は約5千万円、7年度においては約1億3千万円である。今回40人を原則とするという形に見直すこととなるので、これまでよりかかる費用は縮減される。一方、これまでも令和6年度と7年度で行ってきた少人数の対応が、その学年では卒業まで継続されることから、令和7年度と同程度くらいの費用は令和8年度も必要になろうかと試算している。ただ、全体的には増えてきていたものは増えないような形にはなろうかと思う。その後は卒業していけば、そこでの費用は減っていくことになるかと推定している。

〔牧田委員〕

- ・1年目が5千万円で、2年目が1億3千万円というのはどういうことか。

〔教育みらい室県立高校改革推進課長〕

- ・1年目の令和6年度に実施した高校の入学生は3年間、少人数が継続されることとなる。

〔牧田委員〕

- ・累積していくからということか。

〔教育みらい室県立高校改革推進課長〕

- ・そうだ。

〔教育長〕

- ・今年少人数対応を入れていたらということは想定にないので、積算が難しいということは理解いただきたい。

〔大西委員〕

- ・今回10校に増減があり、1クラスずつ減った学校が5校あったということで、近年の中では大きな変更があったと思う。今、高校再編のことが議論されているが、そういうことも含めて受検する子どもたちが安心できるように、中学校とも連携しながら配慮いただければと思う。総合的に見て子どもの人数の減り具合よりも、県立高校の募集定員の全体の数はそれほど減っていないように感じていて、今回公私比率がなくなったことでどのように希望されるのかと思っているが、県立高校の良さ、魅力をこれまで以上に発信してもらえたらと思う。私の息子が通う学校でも、一生懸命高校の魅力発信をしていますということを先生からお聞きした。そういうことは学校で主体的に行い、魅力発信をがんばっておられると思うが、魅力発信のやり方や工夫については何か県教育委員会と相談や協力していることはあるのか。

〔教育みらい室県立高校課長〕

- ・高校の魅力発信については、校長会等でどのような手法が効果を生んでいるのかという説明をし、各校の成功事例を横展開する取組みをしている。今、ホームページでの紹介は当たり前だが、SNSを使って中学生や保護者に向けて発信することも盛んにしており、短い動画でわかりやすく学校の特徴をまとめることも頻繁にやっている。こういった取組みをより充実させていきたいと考えている。

○報告事項(1)関係

〔坪池委員〕

- ・資料の17ページについて、進学先別希望状況の通信制課程というのは、県立の通信制課程、県外の広域通信制課程、高岡龍谷高校の通信制課程の3つと考えてよいか。その内訳は把握しているか。

〔教育みらい室県立高校改革推進課長〕

- ・ご指摘のとおり、通信制課程は県立だけではなく通信制課程全体で希望されている方のことだ。内訳は把握している。

〔坪池委員〕

- ・もう1点、資料の第3表で令和7年度の全体の合計が7,340人になっていて、そのうち県内県立高校

が6,483人になっているが、これを引いた数というのは、県内の私立高校、県外の公立高校、県外の私立高校ということでしょうか。その下に「※私立高校・県外高校を含む」とあり、県内の私立高校、県外の公立高校、県外の私立高校を含めるものにするならそれでよいが、表現が曖昧だと思う。それについても3通り、県内の私立、県外の公立、県外の私立というような内訳は把握できているか。

〔教育みらい室県立高校改革推進課長〕

- ・ご指摘のとおり、県内の公立私立及び県外の公立私立を合わせたものが全体となっている。内訳は把握している。

〔坪池委員〕

- ・県立高校改革推進課からこの資料が出ているが、実施しているのは県教育委員会ということでしょうか。

〔教育みらい室県立高校改革推進課長〕

- ・そうだ。

〔牧田委員〕

- ・昨日、新時代とやまハイスクール構想検討会議があり、非公開での議論の後、知事の記者会見があったようだが、今朝の新聞に「大規模1校に異論」という見出しがあり、「疑念が噴出した」と載っていた。マスコミさんの責任においてどのように書かれるのかは自由だが、非公開の会議に出席していた一人として、実際に知事が非公開の議論の中で大規模校を1校とすることに異論が噴出した、と記者会見でおっしゃったのかどうか伺いたい。

〔教育長〕

- ・あの場ではそのような表現はなかったと記憶している。

午後2時10分、議事が終了したので教育長が閉会を宣した。